

平成 29 年度 事 業 報 告 書
平成 29 年度 計 算 書 類 等

自 平成 29 年 4 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日

公益財団法人 早期胃癌検診協会

目 次

概 況	1
-----	---

事業報告書

A 研究事業	
I 共同研究事業	4
II 個別研究事業	8
III 各種研究会	10
1 早期胃癌研究会	
2 大腸研究会	
IV 研究成果の発表	17
1 論文・著書	
2 学会活動	
3 研究会・研修会における講演	
4 共同研究	
B 研修事業	26
I 実技研修の受入れ	
II 平成消化器懇話会の開催	
C クリニック運営事業	27
D 啓発事業	41
E 法人運営	42

計算書類等

A 貸借対照表	47
B 正味財産増減計算書	48
C 財務諸表に対する注記	50
D 財産目録	52

概 況

日本経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を基調として、緩やかな景気回復が長期化している。今後、経済の好循環を確立するためには、個人消費や設備投資など好循環の支出面にいかにつなげるかが大きな課題となっている。

一方、検診業界は、人間ドックの受診者数自体は微増傾向にあるが、健診単価は伸び悩むことで、市場は横ばいで推移するという厳しい経営環境におかれている。また、大腸がんや肺がんの増加などの疾病構造の変化や ABC 検診をベースとした胃がんのリスク検診への移行などの変化がみられ、検診のあり方が問われている。

平成 29 年度は、減少傾向にある受診者の確保に努めるとともに、新たな社会ニーズに対応するため、当協会独自の検診方法を確立し、それを実施するための準備に取り組んできた。平成 30 年度は、多様化するオプション検査のニーズに対応するため、大腸 CT 検査等の新たな検査を開始し、協会の安定的な運営を確保していかなければならない。

当協会が平成 29 年度に実施した事業は、以下のとおりである。

研究事業については、共同研究・個別研究ともに一定の成果を上げることができたので、引き続き、積極的に研究事業に取り組んでいく。

研修事業のひとつである放射線技師研修については 1 名を受け入れ、消化管の X 線検査研修を行った。さらに、地域の開業医等を対象とした平成消化器懇話会を 2 回開催した。

クリニック運営事業については、検診のうち施設内検診（当協会施設で実施する検診）及び巡回検診は前年度よりわずかに減少し、全体として検診規模は縮小となった。一方、外来診療の患者数は前年度より減少した。

啓発事業については、保健指導者セミナーを開催し、多くの方々の参加を得た。また、医療に関するタイムリーな話題を取り上げたニュースレターを 2 ヶ月に 1 回の割合で計 6 回発行した。

今後とも当協会は、基盤事業であるクリニック運営事業（検診・診療）の規模の維持・拡大に努めるとともに、研究事業、研修事業及び啓発事業を積極的に展開し、もって都民のがん対策及び健康増進に貢献する。

平成 29 年度 事業報告書

A 研究事業

当協会は、検診・診療を通じ、早期胃がんを主として大腸や食道の早期がんを含めた消化器系疾患の学術的かつ診断技術的な研究を行っている。

研究事業には、研究本部の研究室メンバーが共同して行う共同研究事業、協会職員が個別に研究テーマを設定して研究を行う個別研究事業及び学術研究会を開催し支援する事業がある。

I 共同研究事業

共同研究事業は、研究本部に所属する研究室がその中長期目標を達成するために行う研究事業である。平成 29 年度の研究テーマは、平成 28 年からの継続のものが 3 テーマ、新規のものが 3 テーマ、合計で 6 テーマである。

なお、それぞれの研究テーマについて、外部の有識者を含めた「研究事業評価委員会」において、テーマ設定、成果等の評価を行っている。

<研究テーマ>

- 1) 効果的な特定保健指導に関する研究（内臓脂肪面積データの解析）（継続）
（研究本部保健指導研究室）

健康保険法改正に伴い平成 20 年から開始された特定健診におけるメタボリック症候群該当者に対する特定保健指導の有効性を高める方策について研究するのが本研究の目的である。

平成 25 年度は 360 名を内臓脂肪面積測定機で内臓脂肪面積を測定した。内臓脂肪の中央値は 84.65 cm²で、100 cm²以上の人は 28%で、内臓脂肪面積と BMI は中等度の相関、腹囲とは強い相関があった。平成 26 年度は、132 例で検討した結果、100 cm²以上では 76%がメタボ判定であった。

平成 27 年度、平成 28 年度は特定保健指導対象者の保健指導前後の内臓脂肪面積と体重、腹囲、血圧の変化との関係を検討して、ピアゾンの積率相関係数で高い相関がみられ、また、内臓脂肪面積の減少と血圧の減少には関連があった。

平成 29 年度は保健指導によって、特定保健指導対象者の約 9 割が減量に成功した。同年度から開始した腹部 CT 検査による内臓脂肪面積測定を実施した 5 名の保健指導前後での検討の結果、体重・腹囲・内臓脂肪面積・皮下脂肪面積・血圧データの値に相関がみられたが、まだ少数例の検討であり、平成 30 年度も検討を継続する。

- 2) 強力な酸分泌抑制薬を用いた *H.pylori* 除菌治療の有用性の検討（継続）
（研究本部がん対策研究室）

速やかで強力な酸分泌抑制効果があるプロトンポンプ阻害薬であるラベプラゾール：RPZ（パリエット®）を用いたヘリコバクター・ピロリ除菌療法の有用性を平成 26、27 年度に検討してきた。

平成 27 年 3 月よりアッシュドポンプ競合型アッシュドブロッカー：P-CAB（タケキャブ®）が除菌治療に用いられるようになったため、平成 28 年度からはその有用性の検討を開始した。

平成 28 年度の当協会単独の検討では、一次除菌に関してクラリスロマイシン(CAM) 800mg/日投与群のほうが 400mg/日投与群に比べて有意に高い除菌率を示した（ χ^2 検定：p=0.156）。

そこで、平成 29 年度は多数例を集積して、PPI または P-CAB を用いた 3 剤併用療法による一次除菌率(per protocol)を、CAM400mg/日投与群と CAM800mg/日投与群に分けて検討した。検討対象は、当協会などの 7 施設で 2012 年 7 月から 2016 年 10 月の間に除菌治療がなされ成否が確認された 1,310 例である。

PPI 除菌	RPZ 20+AMPC 1500+CAM 400 (140/198)	除菌率(PP)	70.7%	①
	RPZ 20+AMPC 1500+CAM 800 (190/245)		77.6%	②
P-CAB 除菌	VPZ 40+AMPC 1500+CAM 400 (373/423)		88.2%	③
	VPZ 40+AMPC 1500+CAM 800 (416/428)		97.2%	④

④vs③ p<0.001 ②vs① p<0.125 ④+③vs②+① p<0.001

結果として、P-CAB 除菌および PPI 除菌群それぞれに CAM800mg 群のほうが有意に高い除菌率をしめし、高用量 CAM を用いたボノプラザン除菌が日本における最良の 1 次除菌治療であることが確認された。この研究成果は、共同研究者の山崎琢士が第 23 回日本ヘリコバクター学会学術集会のワークショップ 1 で報告した。

「*H.pylori* 感染の診断と治療ガイドライン 2016 年版」では両群の除菌率に差がないとして 400mg/日投与が推奨されているが、今回の検討では異なる結果であった。各施設での成績の集積であり、様々なバイアスが加わった可能性があるため、平成 30 年度は当協会単独で CAM800mg パック剤(ボノサップ® 800)の除菌率を再検証することを到達目標として研究を継続する。

3) レーザー内視鏡を用いたヘリコバクター・ピロリ陽性慢性胃炎に対する内視鏡自動診断プログラムの開発（継続） （研究本部画像病理研究室）

ヘリコバクター・ピロリ感染による慢性胃炎は、胃がんをはじめとする様々な胃疾患の原因になることが知られており、健康保険によるピロリ胃炎の内服治療が既に認可されている。本研究の目的は、内視鏡検査時におけるピロリ菌感染予測を補助する「内視鏡自動診断プログラム」を作成することである。

研究は「千葉大学フロンティア医工学センター」と「富士フィルム株式会社」との共同研究で、当協会としては、千葉大学での解析に使用する内視鏡画像データとピロリ菌感染情報（*H. pylori* IgG 抗体価）を収集する。白色光、Blue LASER Imaging (BLI)、Linked Color Imaging (LCI)における内視鏡画像データの解析に関して、平成 28 年度は、最初の段階として deep learning の

framework を用いて 2 群の内視鏡画像分類プログラムを試作し検討した結果、感度は 41.3%、特異度 95.0%、ROC 曲線による AUC は 0.864 であった。平成 29 年度は、28 年度に試作した診断プログラムの感度を向上させる目的で数回にわたって診断プログラムを改良し、さらにレーザー内視鏡による画像強調法(BLI, LCD)を用いて診断精度は感度 87.0%、特異度 95.0%、ROC 曲線による AUC は 0.96 まで向上した。

この研究成果は JDDW(福岡：日本消化器内視鏡学会 P-40)と UEGD (ヨーロッパ消化器病学会,バルセロナ：P-0160)で発表した。

平成 30 年度は症例の収集を継続し、特に *H. pylori* 除菌の成否の判定まで含めた 3 分類(*H. pylori* 陰性・陽性・除菌後)診断が AI で可能になるよう、診断プログラムを進化させるのが到達目標である。

4) MMG 画像の石灰化と腫瘍の検出装置について (新規)

(研究本部画像病理研究室)

乳がん検診において広く行われているマンモグラフィー(MMG)の画像診断で重要な石灰化影や腫瘍影の検出のために、コンピューターを用いた診断の有用性を検討するのが本研究の目的である。

平成 29 年度は、AI ソフト「ディープラーニング」を使用して、石灰化と腫瘍が描出されている MMG 画像を AI ソフトに読み込み学習させて、石灰化と腫瘍の検出支援装置の作成を試みる目的で、石灰化と腫瘍が描出されている資料画像の収集を計画したが、対象となる画像の収集は困難であった。今後も資料収集の見通しが立たないと考えられたために、成果が得られないまま本年度で本研究を終了することとした。

5) CT コロノグラフィー検査条件の最適化 (新規)

(研究本部画像病理研究室)

大腸がんの罹患率上昇に伴い、今後、大腸がん検診の増加と、それに伴う二次検査の増加が予想される。二次検査として行う画像検査として当協会では大腸内視鏡検査を行ってきたが、その実施数には限界があり、また内視鏡が困難な高齢者の増加が見込まれる、そこで当協会では X 線 CT を用いた CT コロノグラフィー(CTC)の導入を検討している。

平成 29 年度は、その第一段階として前処置撮影条件について検討する予定であったが、CT コロノグラフィー開始に向け各課との業務調整を行うにとどまった。平成 30 年度は CT コロノグラフィーの運用開始の準備を行うと共に、診断精度を高める事を目的にバリウム製剤によるタギングと中残渣検査食、マグコロール P50g+水 180ml を使用した前処置および大腸全体を十分に膨らませるためのガス注入体位の検討を行う。

6) *H.pylori* 除菌後胃癌の内視鏡診断に関する臨床的研究（新規）

（研究本部がん対策研究室）

除菌後発見胃がんは診断困難な場合が多く、除菌後胃において胃がんを発見することに役立つ内視鏡所見は明確ではない。除菌後胃がんそのものの悪性度が低いことや、除菌後の炎症の軽減に伴う背景胃粘膜の凹凸や地図状発赤などの変化が診断困難の原因となると考えられている。今後、増加する除菌後症例の内視鏡診断において早期胃がんを発見するポイントを明確にするために、除菌後胃がんの特徴的な内視鏡所見、胃がん発見の妨げになる除菌後胃炎粘膜所見の両面から検討する。

平成 29 年度は、内視鏡所見を遡及的に解析可能な除菌後発見胃がん 31 病変を対象として背景胃粘膜との関係を検討した結果、(1)除菌後出現する凹凸顕性化による指摘困難、(2)除菌後出現する発赤陥凹類似による指摘困難が多数を占めた。最も頻度の高い(1)に関しては、周囲に凹凸変化が混在することでがんの診断が困難で、除菌前の粘膜萎縮が強い症例で凹凸変化の出現率が高かった。このような症例では白色光のみで腫瘍を明確に認識することが困難であったが、画像強調内視鏡(IEE)診断が有用であった症例も存在した。

除菌で背景粘膜が均一化して胃がん診断が容易になることがある一方、除菌後の背景胃粘膜の形態・色調変化により胃がん発見すら困難になる場合があることが判明した。一部では病変の領域性が不明瞭で深部浸潤例においても診断が困難な場合があり、今後の更なる検討が必要と考えられた。

平成 30 年度は、除菌後症例の内視鏡診断において早期胃がんを発見するポイントを明確にすることを到達目標として、当協会で診断された除菌後胃がんの内視鏡像を再検討して、IEE 拡大診断の有用性を検討する。

II 個別研究事業

個別研究事業は、平成 28 年から継続して研究するものが 1 テーマ、平成 29 年度から新たに研究を開始したものが 2 テーマ、合計で 3 テーマあり、それぞれの研究内容は次のとおりである。

なお、それぞれの研究テーマについて、外部の有識者を含めた「研究事業評価委員会」において、テーマ設定、成果等の評価を行っている。

<研究テーマ>

1) ピロリ除菌治療後のバレット上皮の進展（継続）

（榑 信廣）

平成 24～27 年度までの検討で、5 年以上の経過観察でも、内視鏡的正常胃症例からの胃がんの発生はなく、内視鏡的正常胃の約半数にバレット上皮が認められ、比較的若い年代で進行することが推測された。その検討結果から、胃の酸分泌機能が改善すると考えられている除菌治療後の患者のバレット上皮の推移についても興味を持たれるところである。その視点から、新規研究としてピロリ除菌治療後のバレット上皮の推移を中心に研究する。

平成 27、28 年の検討では、バレット上皮の進展は、男性例に多く 1/5 の症例で認められたが、年齢、酸分泌の指標となる萎縮境界との関係に一定の傾向は認めなかった。平成 29 年度の検討では、ピロリ除菌後に 3 年以上経過を観察されていた症例 99 症例中 20 例(20.2%)にバレット上皮の口側への進展を認めた。バレット上皮の進展に関与する因子の検討では、年齢、胃粘膜萎縮、また前年度にみられた性別による差は乏しかった。一方、除菌後経過期間が長い方が進展した症例が多く認められる傾向があった。しかし、明確な結果は得られず、さらに症例を集積して確認することが必要と考えた。

平成 29 年度までの除菌後の経過観察を中心とした検討では明確な結果は得られなかったので、平成 30 年度はバレット上皮がみられた症例に限定して、除菌例の長期経過を除菌前と対比検討することで、除菌治療とバレット上皮の関係を検討する。バレット上皮の実際の長さの計測が困難であること、また過去の内視鏡画像を用いる後ろ向き検討であるので、挿入時の食道胃接合部の観察画像で、全周性にバレット上皮を認めるものを“あり”(軽度・高度)、全周性には見られないものを“なし”と評価して、除菌前後の複数回の検査画像を比較することで評価する。

2) 内視鏡経過観察によるピロリ除菌後の胃粘膜内視鏡所見の変化に関する研究（新規）

（榑 信廣）

平成 25 年にピロリ胃炎に対する除菌治療が保険適応になり、除菌治療後のピロリ既感染胃における胃炎および胃がんの内視鏡診断が胃検診においても重要となってきている。特にピロリ既感染胃に特徴的にみられる地図状発赤は、

平成 28 年度の共同研究(がん対策研究室)で除菌後胃がんの発見のためにも重要で、除菌後に胃がん発見が困難になるとの危惧の原因にもなっている所見である。そのような理由で、胃粘膜内視鏡所見がピロリ除菌治療で現感染から既感染に変わる時にどのように変化をしていくのか知ることは臨床的に大切と考えた。

平成 29 年度は、ピロリ除菌治療の時期が明確で、除菌前後に経時的に詳細に胃粘膜所見の観察がなされた症例を対象に、腸上皮化生の可視化と考えられている地図状発赤の出現について、除菌前の胃粘膜の状態と対比しながら、後ろ向きに検討した。症例を集積中であるが、対象となる除菌後の 98 症例における地図状発赤(前庭部では斑状発赤)の出現頻度は、27.6% (27/98)で、3,872 例を対象にした山崎の平成 28 年度の個別研究での地図状発赤の感度 31%と同様の結果であった。この地図状発赤は、除菌前に萎縮性胃炎の進展の程度が進展している症例ほど高頻度に認められた。一方、年齢、除菌後期間では明確な差を認めなかった

平成 30 年度は、除菌後に地図状発赤が明確になった例のみ限定して、除菌前胃粘膜の内視鏡所見と地図状発赤の出現との関係を見ることを到達目標とする。

3) 大腸ポリープの検出および鑑別について人工知能技術の開発ならびに適用に関する共同研究 (新規)

(中島寛隆)

増加傾向にある日本人の大腸癌死亡者を減少させるためには、病変の早期発見と早期治療が必要である。大腸は約 2m の長大な管腔臓器のため詳細に観察すると長い検査時間を要する。長い検査時間は患者のみならず内視鏡医の負担も大きい。大腸内視鏡検査時間を短縮しながらポリープの検出精度向上させることができれば、内視鏡診療における貢献が大きい。

本研究の目的は、「人工知能を用いて効率良く大腸ポリープを検出ならびに鑑別する技術を開発すること」である。

平成 29 年度は画像解析プログラムを作成するために必要な情報を集め分析を開始する事を目標に、症例登録システムの整備を主に活動した。まず院内の研究倫理委員会へ研究内容と方法を報告し、倫理的な問題がなく研究を進める承認を得た。そして、富士フイルム製レーザー内視鏡(LASEREO)も用いた検査に割り当てられた患者約 200 名を対象として、今回作成した登録システムに沿って、動画と静止画像を記録して、分析中である。

平成 30 年度は画像データ(白色光、Blue LASER Imaging、Linked Color Imaging)の集積を続けながら、画像解析プログラムを作成するために必要な情報を集め、競合する他施設の研究についての学会発表内容などを参考にしながら、「人工知能を用いて効率良く大腸ポリープを検出ならびに鑑別する」解析方法を検討する。

Ⅲ 各種研究会

早期消化管がんの診断技術の進歩とその普及を促進するためには、多くの研究者による多様な症例についての厳しい討論の場が不可欠である。その意味で現在、当協会がかかわっている研究会（早期胃癌研究会、大腸研究会）の役割は大きく、一層の進展に努めてきた。

1 早期胃癌研究会

本研究会は、昭和 35 年に初期癌研究会として発足後 58 年を経過（昭和 39 年に早期胃癌研究会と改称）し、研究会の果たしてきた役割への高い評価と将来への期待の大きさが再認識されている。東京都を中心とした国内の大学、病院から提出される毎回平均 5 症例の X 線、内視鏡、病理検査所見について、最先端のすこぶる厳しい討論が行われた。この研究会を通じて、最新の診断技術と理論の応用と普及が図られ、胃がんを中心とする消化管がんの早期診断法及び治療法は進歩を続けている。

また、本研究会は、日本医学放射線学会から放射線科専門医更新単位取得制度学術集会として認定されている。

平成 29 年度の月例検討症例内容は、早期胃癌研究会実施明細のとおりである。

1) 研究会の運営

研究会は、専門領域や地域性を考慮し選出された 52 名の運営委員により運営されている。そのうち運営幹事が運営委員長を補佐し、研究会運営を推進している。

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

【運営委員長】 1 名

小 山 恒 男 佐久医療センター 内視鏡内科

【運営幹事】 12 名

九 嶋 亮 治 滋賀医科大学 臨床検査医学講座

小 林 広 幸 福岡山王病院 消化器内科

斉 藤 裕 輔 市立旭川病院 消化器病センター

榊 信 廣 早期胃癌検診協会

清 水 誠 治 大阪鉄道病院 消化器内科

田 中 信 治 広島大学 内視鏡診療科

長 浜 隆 司 千葉徳洲会病院 消化器内科 内視鏡センター

二 村 聡 福岡大学医学部 病理学講座

松 本 主 之 岩手医科大学医学部内科学講座 消化器内科 消化管分野

八 尾 建 史 福岡大学筑紫病院 内視鏡部

八 尾 隆 史 順天堂大学大学院医学研究科 人体病理病態学

山 野 泰 穂 札幌医科大学医学部 消化器内科学講座
内視鏡センター

【名誉幹事】 3名

飯 田 三 雄 公立学校共済組合九州中央病院
多 田 正 大 多田消化器クリニック
八 尾 恒 良 佐田病院 名誉院長

【顧問】 3名

岩 下 明 徳 福岡大学筑紫病院 病理部
下 田 忠 和 静岡県立静岡がんセンター 病理診断科
渡 辺 英 伸 新潟大学 名誉教授

(五十音順)

2) 雑誌「胃と腸」の発行と編集委員

早期胃癌研究会において検討された症例は、編集会議を経て、雑誌「胃と腸」に掲載される。また、毎号特集する主題が選定され、主題関連論文（X線診断、内視鏡診断、病理診断など）が編集委員を中心にして執筆、掲載される。

(平成30年3月31日現在)

【編集委員長】 1名

鶴 田 修 久留米大学医学部 消化器病センター

【編集委員】 24名

赤 松 泰 次 長野県立信州医療センター 内視鏡内科
味 岡 洋 一 新潟大学大学院医歯学総合研究科 分子・診断病理学
江 頭 由太郎 大阪医科大学 病理学
大 倉 康 男 PCL JAPAN 病理・細胞診センター 川越ラボ
小 澤 俊 文 総合犬山中央病院 消化器内科
小 野 裕 之 静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科
小 山 恒 男 佐久医療センター 内視鏡内科
海 崎 泰 治 福井県立病院 病理診断科
九 嶋 亮 治 滋賀医科大学 臨床検査医学講座
蔵 原 晃 一 松山赤十字病院 胃腸センター
小 林 広 幸 福岡山王病院 消化器内科
斉 藤 裕 輔 市立旭川病院 消化器病センター
清 水 誠 治 大阪鉄道病院 消化器内科
菅 井 有 岩手医科大学医学部 病理診断学講座
田 中 信 治 広島大学 内視鏡診療科

長	南	明	道	仙台厚生病院	消化器内視鏡センター
長	浜	隆	司	千葉徳洲会病院	消化器内科 内視鏡センター
二	村		聡	福岡大学医学部	病理学講座
松	田	圭	二	帝京大学医学部	外科学講座
松	本	主	之	岩手医科大学医学部内科学講座	消化器内科消化管分野
門	馬	久美子		がん・感染症センター都立駒込病院	内視鏡科
八	尾	建	史	福岡大学筑紫病院	内視鏡部
八	尾	隆	史	順天堂大学大学院医学研究科	人体病理病態学
山	野	泰	穂	札幌医科大学医学部	消化器内科学講座 内視鏡センター

(五十音順)

早期胃癌研究会実施明細（平成 29 年度）

開催年月日	例会幹事	症例提示施設	発表医師	症例
平成 29 年 4 月 26 日 出席人数/348 名 笹川記念会館 2 階 国際会議場	長野県立病院機構須坂病院 内視鏡センター 赤松 泰次 藤田保健衛生大学医学部 消化管内科 大宮 直木 東京都健康長寿医療センター 病理診断科 新井 富士	1) 仙台厚生病院 消化器内科 2) 久留米大学医学部 消化器病センター 3) 福岡赤十字病院 消化器内科 4) 京都桂病院 消化器内科 5) 石川県立中央病院 消化器内科 画像診断教育レクチャー 滋賀医科大学 臨床検査医学講座	田中 一平 永田 務 工藤 哲司 永田 信二 竹村 健一 九嶋 亮治	S 状結腸癌の一例 内視鏡的治療を施行した肛門管癌の一例 4 型病変様の所見を呈した乳癌の胃転移の一例 確定診断に迷った胃発赤陥凹性病変の一例 深達度診断に苦慮した表在型食道扁平上皮癌 テーマ：臨床医が知っておくべき病理 その 2 「【胃】胃の未分化型癌」
平成 29 年 5 月 10 日 出席人数/272 名 第 56 回「胃と腸」大会 リーガロイヤルホテル大阪 ウエストウイング 2 階 山楽の間	神戸大学大学院医学研究科 消化器内科学分野 梅垣 英次 大阪鉄道病院 消化器内科 清水 誠治 大阪医科大学 病理学教室 江頭由太郎	1) 神戸大学大学院医学研究科 消化器内科学分野 2) 大阪国際がんセンター 消化管内科 3) 京都第二赤十字病院 消化器内科 4) 京都第一赤十字病院 消化器内科 5) 北摂総合病院 消化器内科 早期胃癌研究会方式による画像プレゼンテーションの基本と応用 市立旭川病院 消化器病センター	阿部 洋文 中平 博子 碓山 直邦 奥山 祐右 佐野村 誠 斉藤 裕輔	胃濾胞性リンパ腫の一例 腺癌成分を伴った大細胞型内分泌細胞癌の一例 蛋白漏出性胃腸症を契機に発見された、コレステロール塞栓症による小腸多発潰瘍の一例 著明な粘膜架橋を呈する S 状結腸癌の一例 上行結腸の良性リンパ濾胞性ポリープの一例 「序論：消化管病変診断の基本手順(消化管全般)」
平成 29 年 6 月 28 日 出席人数/396 名 笹川記念会館 2 階 国際会議場	石川県立中央病院 消化器内科 土山 寿志 松山赤十字病院 胃腸センター 蔵原 晃一 岩手医科大学医学部 病理診断学講座 菅井 有	1) 京都府立医科大学 消化器内科 2) 九州大学大学院 病態機能内科学 3) 佐久医療センター 内視鏡内科 4) 産業医科大学 第 3 内科学 5) 新潟大学医歯学総合病院 消化器内科 早期胃癌研究会方式による画像プレゼンテーションの基本と応用 芦屋中央病院 消化器科	吉田 直久 永田 豊 高橋亜紀子 久米井伸介 橋本 哲 高木 靖寛	Xanthoma を合併した大腸 SSA/P の一例 腎細胞癌直腸転移の一例 分化型胃癌との鑑別が困難であり、 <i>H.pylori</i> 感染による tight junction 障害に伴う胃扁平隆起性病変の一例 特異な形態を呈した胃底腺粘膜型胃癌の一例 リンパ球浸潤胃癌(Gastric carcinoma with lymphoid stroma)の初期像と考えられた一例 「画像診断プレゼンテーションの基本手順(基礎編)：食道」
平成 29 年 7 月 28 日 出席人数/679 名 ベルサール高田馬場 地下 2 階 ホール A	早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック 中島 寛隆 がん研有明病院 下部消化管内科 斎藤 彰一 獨協医科大学越谷病院 病理診断科 伴 慎一	1) 長岡赤十字病院 消化器内科 2) がん研有明病院 上部消化管内科 3) 長野県立信州医療センター 消化器内科 4) がん研有明病院 下部消化管内科 5) 東京慈恵会医科大学 内視鏡科 早期胃癌研究会方式による画像プレゼンテーションの基本と応用 福岡大学筑紫病院 内視鏡部	竹内 学 山本 安則 深井 晴成 井出 大資 宮崎 享佑 八尾 建史	表在型食道内分泌細胞癌の一例 胃体上部にみられた胃腫瘍の一例 High grade 成分を伴った <i>H.pylori</i> 陰性 stage II2 胃 MALT リンパ腫(diffuse large B-cell lymphoma)の一例 直腸下部にみられた大腸腫瘍の一例 盲腸にみられた大腸腫瘍の一例 「画像診断プレゼンテーションの基本手順(基礎編)：胃」
平成 29 年 8 月	休 会			
平成 29 年 9 月 20 日 出席人数/362 名 笹川記念会館 2 階 国際会議場	佐久医療センター 内視鏡内科 小山 恒男 帝京大学医学部 外科学講座 松田 圭二 福井県立病院 病理診断科 海崎 泰治	1) 帝京大学医学部 消化器内科 2) 九州医療センター 消化器内科 3) 東京都がん検診センター 消化器内科 4) 藤田保健衛生大学医学部 消化管内科 5) 東京女子医科大学 消化器内科	三木 淳史 和田 将史 山里 哲郎 田原 智満 久礼 里江	小腸 GIST 2 段隆起を呈した十二指腸神経内分泌腫瘍の一例 多彩な肉眼型を呈したサルコイドーシスの胃病変の一例 過形成性ポリープの癌化例と考えられる隆起型早期胃癌 心窩部痛と黒色便を主訴に来院した胃梅毒の一例

開催年月日	例会幹事	症例提示施設	発表医師	症 例
平成 29 年 11 月 15 日 出席人数/407 名 笹川記念会館 2 階 国際会議場	大阪国際がんセンター 消化管内科 上堂 文也 九州大学大学院 病態機能内科学 江崎 幹宏 福岡大学医学部 病理学講座 二村 聡	1) 岐阜県総合医療センター 消化器内科 2) 福井県立病院 消化器内科 3) 松山赤十字病院 胃腸センター 4) 原三信病院 消化器内科 5) 大阪市立総合医療センター 消化器内科 早期胃癌研究会方式による画像プレゼンテーションの基本と応用 久留米大学医学部 消化器病センター	山崎 健路 青柳 裕之 萱嶋 善行 原口 和大 佐野 弘治 鶴田 修	食道に広範囲に拡がる低異型度高分化型胃型腺癌の一例 胃原発バーキットリンパ腫の一例 多発性粘膜下腫瘤様隆起を伴った AL アミロイドーシスの一例 非典型的な形態を呈し、頂部より粘液流出を認めた直腸カルチノイドの一例 T 細胞性リンパ腫の一例 「画像診断プレゼンテーションの基本手順(基礎編)：大腸(おもに腫瘍性疾患)」
平成 29 年 12 月 20 日 出席人数/399 名 笹川記念会館 2 階 国際会議場	総合犬山中央病院 消化器内科 小澤 俊文 広島市立安佐市民病院 内視鏡内科 永田 信二 新潟大学大学院医歯学総合研究科 分子・診断病理学 味噌 洋一	1) 佐世保共済病院 消化器内科 2) 秋田赤十字病院 消化器病センター 3) 島根大学医学部附属病院 消化器内科 4) 佐世保共済病院 消化器内科 5) 広島市立安佐市民病院 消化器内科 早期胃癌研究会方式による画像プレゼンテーションの基本と応用 岩手医科大学医学部 内科学講座 消化器内科消化管分野	大仁田 賢 田中 義人 福山 知香 丸山 祐二 向井 伸一 松本 主之	腫瘍性病変との鑑別に苦慮した直腸粘膜脱症候群の一例 横行結腸病変の一例 <i>H.pylori</i> 未感染胃粘膜に発症した多発胃腺窩上皮型胃癌と腺窩上皮過形成性の一例 除菌後 7 年目に粘膜下腫瘍様に発生した chronic active gastritis with florid lymphoid follicle formation 食道びまん性隆起病変の一例 「画像診断プレゼンテーションの基本手順(基礎編)：小腸・大腸(おもに非腫瘍性疾患)」
平成 30 年 1 月 17 日 出席人数/369 名 笹川記念会館 2 階 国際会議場	佐久医療センター 内視鏡内科 小山 恒男 福岡山王病院 消化器内科 小林 広幸 順天堂大学大学院医学研究科 人体病理病態学 八尾 隆史	1) 伊東市民病院 消化器内科 2) 佐久医療センター 内視鏡内科 3) 戸畑共立病院 消化器内科 4) 岩手医科大学 消化器内科消化管分野 5) 藤田保健衛生大学 消化管内科 早期胃癌研究会方式による画像プレゼンテーションの基本と応用 福岡大学医学部 病理学講座	小野田圭佑 高橋亜紀子 武田 輝之 川崎 啓祐 大森 崇史 二村 聡	胃癌 分化型胃癌との鑑別が難しかった Perineurioma(神経周膜腫)の一例 動静脈奇形様の血管の怒張を伴った小腸 GIST の一例 狭窄型を呈した小腸濾胞性リンパ腫の一例 ミコフェノール酸モフェチル製剤が原因薬剤と診断された多発小腸大腸潰瘍の一例 「画像診断プレゼンテーションの基本手順(基礎編)：病理標本の取り扱いとマクロ写真撮影」
平成 30 年 3 月 14 日 出席人数/411 名 笹川記念会館 2 階 国際会議場	静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科 小野 裕之 札幌医科大学 内科学講座 消化器内視鏡センター 山野 泰穂 滋賀医科大学 臨床検査医学講座 九嶋 亮治	1) 岐阜県総合医療センター 消化器内科 2) 大阪市立十三市民病院 消化器内科 3) 静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科 4) 公立学校共済組合中国中央病院 消化器内科 5) 岩手医科大学 消化器内科消化管分野	山崎 健路 中内 脩介 間 浩正 藤原 延清 川崎 啓祐	日本住血吸虫症の一例 多発した隆起型 MPS の一例 上皮性腫瘍との鑑別が困難であった炎症性病変の一例 粘膜下腫瘍様の形態を呈し、異所性胃腺との関連が疑われた胃型分化型腺癌の一例 詳細な画像所見が得られた Collagenous gastritis の一例

2 大腸研究会

東京都を中心に国内の大学、病院から提出される症例について、X線、内視鏡、病理所見について最先端の検討、討論を行った。

この研究会を通じて、「早期大腸がんの診断能の確立と普及」という大テーマが着実に進行し、若手研究者の育成に大いに貢献している。

平成29年度の月例検討症例内容は、大腸研究会実施明細のとおりである。

(平成30年3月31日現在)

【代表世話人】 1名

鶴田 修 久留米大学医学部 消化器病センター

【世話人】 9名

味岡 洋一 新潟大学大学院医歯学総合研究科 分子・診断病理学
池上 雅博 東京慈恵会医科大学附属病院 病院病理部
大倉 康男 PCL JAPAN 病理・細胞診センター 川越ラボ
斎藤 彰一 がん研有明病院 下部消化管内科
高木 篤 みなと医療生活協同組合協立総合病院 内科
津田 純郎 岡山済生会総合病院 健診センター
富樫 一智 福島県立医科大学 会津医療センター附属病院
小腸・大腸・肛門科
長浜 隆司 千葉徳洲会病院 消化器内科 内視鏡センター
西俣 嘉人 南風病院

【監事】 2名

河野 弘志 聖マリア病院 消化器内科
中島 寛隆 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック

(五十音順)

大腸研究会実施明細（平成 29 年度）

開催年月日	症例提示施設	発表医師	出席人数
平成 29 年 4 月 24 日	1) がん研有明病院 消化器内科 2) 佐久医療センター 消化器内科 3) 協立総合病院 消化器内科	斎藤 彰一 篠原 知明 名和 晋輔	35 名
平成 29 年 6 月 26 日	1) 協立総合病院 消化器内科 2) 久留米大学病院 消化器病センター 3) がん研有明病院 消化器内科	名和 晋輔 徳安 秀紀 渡海 義隆	54 名
平成 29 年 8 月 28 日	1) がん研有明病院 消化器内科 2) 協立総合病院 消化器内科 3) 佐久医療センター 消化器内科	斎藤 彰一 名和 晋輔 篠原 知明	44 名
平成 29 年 10 月	休 会		
平成 29 年 12 月 11 日	1) がん研有明病院 消化器内科 2) 協立総合病院 消化器内科 3) 久留米大学病院 消化器病センター	山本 安則 名和 晋輔 永田 務	45 名
平成 30 年 2 月 26 日	1) がん研有明病院 消化器内科 2) 福岡大学筑紫病院 消化器内科 3) 協立総合病院 消化器内科	山本 安則 中馬 健太 名和 晋輔	45 名

会場： 4・6・8 月 東京慈恵会医科大学 高木 2 号館 地下 1 階南講堂
12・2 月 東京慈恵会医科大学 大学 1 号館 6 階講堂

IV 研究成果の発表（下線は他施設共同研究者）

1 論文・著書

<総説・その他>

1) 榑 信廣

「胃粘膜萎縮の内視鏡所見」
胃と腸 第52巻第5号 613 医学書院
平成29年5月

2) 榑 信廣 上堂文也 小池智幸

「酸分泌機能障害の内視鏡診断」
消化器内視鏡 第29巻第10号 1857-1859 東京医学社
平成29年10月

3) 榑 信廣

「*H.pylori* 除菌で内視鏡的萎縮性胃炎はどのように改善するのか？
萎縮性胃炎のスペクトラムも変化しているか？」
消化器内視鏡 第30巻第1号 92-93 東京医学社
平成30年1月

<著書>

1) 榑 信廣

「ピロリ除菌治療パーフェクトガイド 2版」編集
日本医事新報社
平成29年10月

2) 榑 信廣

「除菌治療が必要な人は？」
ピロリ除菌治療パーフェクトガイド 2版 1-4 日本医事新報社
平成29年10月

3) 榑 信廣

「除菌治療後に潰瘍が発生した?!」
ピロリ除菌治療パーフェクトガイド 2版 74-75 日本医事新報社
平成29年10月

4) 榑 信廣

「いつからピロリ菌と呼ばれるようになったのか？」
ピロリ除菌治療パーフェクトガイド 2版 197 日本医事新報社
平成29年10月

- 5) 渡海義隆 中島寛隆 榊 信廣
「X線検診のデメリット・偶発症の受診者説明と対応法」
胃炎をどうする？ 第2版 184-187 日本医事新報社
平成29年10月
- 6) 榊 信廣
「消化性潰瘍診療ガイドライン2015（改訂第2版）」
今日の治療指針2018 1900-1904 医学書院
平成30年1月

2 学会活動

- 1) 渡海義隆 山崎琢士 河内 洋
「除菌後発見胃癌の診断困難因子と急速進展進行癌症例の臨床病理学的特徴」
第93回日本消化器内視鏡学会総会 ワークショップ 大阪
平成29年5月11日

- 2) 中島寛隆
「胃—除菌後胃癌1」
第93回日本消化器内視鏡学会総会 一般演題口演7 座長 大阪
平成29年5月11日

- 3) 中島寛隆 川平 洋 河内 洋
「人工知能による食道癌の生検診断」
第71回日本食道学会学術集会 ポスター 長野
平成29年6月15日

- 4) 工藤 泰
「症例提示」
第56回日本消化器がん検診学会総会 放射線フォーラム 症例検討会
茨城
平成29年6月24日

- 5) 山本美穂
「ザ・ベストイメージングコンテスト」
第77回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部学術集会
第19回超音波研修委員会 司会 神奈川
平成29年8月26日

- 6) 中島寛隆 川平 洋 河内 洋 榊 信廣
「IEE内視鏡画像で *Helicobacter pylori* 感染を診断する人工知能の作成」
第25回JDDW 第94回日本消化器内視鏡学会総会 ポスター 福岡
平成29年10月12日

- 7) 渡海義隆 山崎琢士 河内 洋
「除菌後新たに生じる胃粘膜変化による診断困難因子の内視鏡・組織学的検討」
第 25 回 JDDW 第 94 回日本消化器内視鏡学会総会 第 59 回日本消化器病学会大会 第 15 回日本消化器外科学会大会 第 55 回日本消化器がん検診学会大会
パネルディスカッション 福岡
平成 29 年 10 月 13 日
- 8) Nakashima H Kawahira H Kawachi H Sakaki N
「Artificial intelligence diagnosis of *Helicobacter pylori* infection using linked color imaging」
United European Gastroenterology Week 2017 ポスター スペイン
平成 29 年 10 月 30 日
- 9) 山本美穂
「初心者のための腹部超音波実技講習会」
日本消化器がん検診学会関東甲信越支部超音波研修委員会 実技指導講師
東京
平成 30 年 2 月 10 日

3 研究会・研修会における講演

1) 中島寛隆

「胃がん内視鏡検診—実地で役立つ知識と技術」
第11回藤が丘 GI 連携フォーラム 特別演題 神奈川
平成29年6月22日

2) 中島寛隆

「胃がん内視鏡検診における LCI と BLI の活用法」
FUJIFILM MEDICAL SEMINAR 2017 in 東京 これから始まる胃内視鏡
検診セミナー —対策型胃がん内視鏡検診の実施と有効な内視鏡検査法—
講演 東京
平成29年7月13日

3) 中島寛隆

「早期胃癌の臨床診断—実地で役立つ知識と技術—」
静岡胃疾患研究会 第388回静岡胃疾患研究会 講演 静岡
平成29年7月21日

4) 榊 信廣

「ピロリ除菌治療の新しい展開—新しい酸分泌抑制薬の効果と除菌後胃癌を
中心に—」
堺市医師会内科医会 大阪府内科医会 堺市医師会内科医会学術講演会
特別講演 大阪
平成29年8月22日

5) 中島寛隆

「胃内視鏡検診に役立つ知識と技術」
世田谷区医師会 胃がん内視鏡健診に関する研修会 特別講演 東京
平成29年9月13日

6) 榊 信廣

「ピロリ除菌時代の胃内視鏡検診」
豊島区医師会 胃がん研修会 特別講演 東京
平成29年9月28日

- 7) 工藤 泰
「胃 X 線検査に用いる造影剤と撮影装置」
NPO 日本消化器がん検診精度管理評価機構 平成 29 年度新人向け基準撮
影法講習会 講演 熊本
平成 29 年 10 月 29 日
- 8) 工藤 泰
「基準撮影法について ①接遇と安全対策」
NPO 日本消化器がん検診精度管理評価機構 平成 29 年度新人向け基準撮
影法講習会 講演 熊本
平成 29 年 10 月 29 日
- 9) 中島寛隆
「消化器内視鏡と Deep Learning」
難治性 FGIDs 講演会 特別講演 千葉
平成 29 年 11 月 15 日
- 10) 工藤 泰
「良性悪性判定を視野に入れた病変の拾い上げ」
第 119 回東京胃会 講演 東京
平成 29 年 11 月 17 日
- 11) 山本美穂
「超音波検査技術講習会」
全国労働衛生団体連合会 実技指導講師 東京
平成 29 年 11 月 18・19 日
- 12) 中島寛隆
「胃内視鏡検診 実地で役立つ技術と知識」
松戸医師会 第 277 回消化器病研修会 講演 千葉
平成 30 年 2 月 16 日
- 13) 中島寛隆
「上部消化管検査のいままでとこれから」
第 30 回日本消化器画像診断情報研究会千葉大会 シンポジウム 千葉
平成 30 年 2 月 24 日

- 14) 工藤 泰
「上部消化管検査のいままでとこれから」
第30回日本消化器画像診断情報研究会千葉大会 シンポジウム 司会
千葉
平成30年2月24日
- 15) 工藤 泰
「透視観察と追加撮影」
JA新潟厚生連 平成29年度消化管撮影講習会 講演 新潟
平成30年3月3日
- 16) 工藤 泰
「撮影技術を極めよう—後壁撮影の極意 U領域」
東京 Jr.胃会中四国大会 講演 岡山
平成30年3月21日

4 共同研究

<原 著>

- 1) Ishii N Omata F Fujisaki J Nakashima H et al.
「Management of early gastric cancer with positive horizontal or indeterminate margins after endoscopic submucosal dissection: multicenter survey」
Endoscopy International Open 2017 Vol.5No.5 E354-E362
平成 29 年 5 月

- 2) Itoh T Kawahira H Nakashima H Yata N
「Deep learning analyzes *Helicobacter pylori* infection by upper gastrointestinal endoscopy images」
Endoscopy International Open 2018 Vol.6No.2 E139-E144
平成 30 年 2 月

<学会活動>

- 1) 山崎琢士 天野由紀 渡海義隆
「「胃炎の京都分類」に加える新規所見「噴門部胃炎」の提案」
第 93 回日本消化器内視鏡学会総会 パネルディスカッション 大阪
平成 29 年 5 月 12 日

- 2) 山崎琢士 天野由紀 渡海義隆 榊 信廣 千葉井基泰
「高用量 CAM を用いたボノプラザン除菌が最良の 1 次除菌治療である」
第 23 回日本ヘリコバクター学会学術集会 ワークショップ 北海道
平成 29 年 6 月 30 日

- 3) 森 英毅 鈴木秀和 小俣富美雄 榊 信廣 他
「東京地区多施設共同調査による *Helicobacter pylori* 一次・二次除菌率の経年変化」
第 23 回日本ヘリコバクター学会学術集会 ワークショップ 北海道
平成 29 年 6 月 30 日

- 4) 伊藤慎芳 浅岡大介 永原章仁 榊 信廣 他
「ペニシリンアレルギー症例のボノプラザンを含む除菌治療成績 東京地区多施設共同調査」
第 23 回日本ヘリコバクター学会学術集会 ワークショップ 北海道
平成 29 年 6 月 30 日

- 5) 徳永健吾 伊藤慎芳 浅岡大介 榊 信廣 他
「ボノプラザンを用いた *H.pylori* 三次除菌療法の有用性—東京都内多施設
検討—」
第 23 回日本ヘリコバクター学会学術集会 ワークショップ 北海道
平成 29 年 6 月 30 日

B 研修事業

I 実技研修の受入れ

当協会における実技研修を希望する放射線技師を受け入れて指導した。
主たる研修内容は、消化管の X 線検査であり、放射線技師 1 人を受け入れた。

1 放射線技師

所属施設	受入数	研修期間		
		～3ヶ月	～6ヶ月	～12ヶ月
医療法人社団 三和会 中央診療所	1	1		
計	1	1		

II 平成消化器懇話会の開催

地元開業医等を対象とする勉強会であり、専門医師の最新の診断や治療についての講演が聞けるといことで多くの参加があり、有意義な会となった。

『平成 29 年度第 1 回』

開催日：平成 29 年 7 月 6 日（木）
場所：早期胃癌検診協会 附属茅場町クリニック
講演者：東京医科大学病院
消化器内視鏡学分野内視鏡センター主任教授 河合 隆先生
演題：「ピロリ除菌時代の胃癌検診」

『平成 29 年度第 2 回』

開催日：平成 30 年 1 月 19 日（金）
場所：早期胃癌検診協会 附属茅場町クリニック
講演者：慶應義塾大学病院 予防医療センター長
医学部教授 岩男 泰先生
演題：「炎症性腸疾患の内視鏡診断と治療」

C クリニック運営事業

1 検診事業

企業からの委託による従業員を対象とした健康診断をはじめとして、中央区民を対象とした区民検診、個人の方を対象とした健康診断等、さまざまな健康診断を行った。

人間ドック（日帰り半日コース）、生活習慣病検診、法定検診及び婦人科検診等の各種検診の検診受診者は 12,209 人であった。

また、企業の従業員検診については、委託企業へ出向きそこで検診を行う巡回検診にも対応しており、検診受診者は 5,213 人であった。

2 診療事業

地域住民、近隣事業所勤務者のほか、近隣医療機関等からの紹介により、当クリニックの受診を希望する方を対象に外来診療を行った。

診療日：月曜日～土曜日（土曜日は、第 2 及び第 4 週の午前中のみ）

診療時間：午前 9 時～午後 4 時（午前 11 時 30 分～午後 1 時を除く。）

診療科目：内科、消化器科、呼吸器専門外来、肝臓専門外来

来院数（年間延べ人数）：9,182 人

3 特定保健指導

特定健診においてメタボリック症候群該当者と判定された特定保健指導対象者に対して、特定保健指導を行った。

指導日：月曜日～金曜日

指導時間：午後 1 時～午後 4 時

指導内容：医師による面談、保健師による指導、行動目標及び行動計画の作成等

4 その他

研究のテーマを臨床面から促進するため、職域集団を対象とする集団検診及び精密検査、その後の経過管理システムの構築を進め一定の成果を上げているが、さらにデータ整備システムを補強した。

また、急増している大腸がんの早期発見技術を確立するため、引き続き大腸検査の受診率向上とその検査機能の進歩に努めた。

1 平成 29 年度 施設内検診件数

(単位：件)

	人間ドック	生活習慣病 検 診	法定検診	婦 人 科 検 診	計
4 月	243	312	157	0	712
5 月	302	531	200	0	1,033
6 月	515	464	263	0	1,242
7 月	567	262	205	0	1,034
8 月	616	257	217	0	1,090
9 月	556	277	293	33	1,159
10 月	641	337	440	137	1,555
11 月	576	335	267	138	1,316
12 月	425	242	168	0	835
1 月	366	140	140	0	646
2 月	382	284	182	0	848
3 月	337	159	243	0	739
計	5,526	3,600	2,775	308	12,209

* 婦人科検診は、人間ドック、生活習慣病検診及び法定検診における婦人科オプション項目以外で乳がん、子宮がん、卵巣がん、子宮筋腫等の検査を行った件数である。

2 平成 29 年度 巡回検診件数

(単位：件)

	検 診	胃 検 診	計
4 月	1,083	145	1,228
5 月	0	222	222
6 月	323	316	639
7 月	704	216	920
8 月	433	220	653
9 月	0	267	267
10 月	0	228	228
11 月	0	251	251
12 月	0	178	178
1 月	0	194	194
2 月	0	198	198
3 月	0	235	235
計	2,543	2,670	5,213

3 平成 29 年度 外来受診者数

(単位：人)

	平成 29 年度	平成 28 年度	差 引
4 月	732	935	△203
5 月	713	790	△77
6 月	813	955	△142
7 月	787	899	△112
8 月	768	936	△168
9 月	757	888	△131
10 月	797	879	△82
11 月	703	896	△193
12 月	781	804	△23
1 月	740	755	△15
2 月	779	804	△25
3 月	812	862	△50
計	9,182	10,403	△1,221

4 平成 29 年度 上部消化管 X 線検査

① 目的別検査件数

(単位：件)

項 目		計	性 別		受 診 歴	
			男 性	女 性	初 回	逐 年
検 診	任意型	5,121	4,008	1,113	1,005	4,116
			(78.3%)	(21.7%)	(19.6%)	(80.4%)
	対策型	2,930	2,293	637	410	2,520
			(78.3%)	(21.7%)	(14.0%)	(86.0%)
一 般 診 療		2	2	0	2	0
			(100%)	(0%)	(100%)	(0%)
計		8,053	6,303	1,750	1,417	6,636

- ・「任意型」とは、個人の死亡リスクの減少を目的とする医療機関等から任意で提供されるがん検診をいう。
- ・「対策型」とは、企業や学校等の死亡率減少を目的とする公共的な予防対策として実施されるがん検診をいう。

② 受診者の年齢構成

(単位：件)

年 齢	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
任意型検診	126	1,088	1,854	1,390	595	67	1	5,121
対策型検診	16	421	1,240	934	297	20	2	2,930
計	142	1,509	3,094	2,324	892	87	3	8,051

③ 要精検率と精検受診者率（施設内）

(単位：件)

	検診全体					初回検診群					逐年検診群				
	要精検者数 (要精検率)	精検受診者数 (精検受診率)	検査総数		要精検者数 (要精検率)	精検受診者数 (精検受診率)	検査総数		要精検者数 (要精検率)	精検受診者数 (精検受診率)	検査総数				
任意型	188	3.7%	54	28.7%	5,121	42	4.2%	9	21.4%	1,005	146	3.5%	45	30.8%	4,116
対策型	107	3.7%	61	57.0%	2,930	18	4.4%	5	27.8%	410	89	3.5%	56	62.9%	2,520
計	295	3.7%	115	39.0%	8,051	60	4.2%	14	23.3%	1,415	235	3.5%	101	43.0%	6,636

- ・「要精検率」とは、検診受診者総数に対し、精密検査が必要とされた者の割合＜要精検率(%) = 要精検者数 / 受診者総数＞をいう。
- ・「精検受診率」とは、精密検査が必要とされた者のうち、実際に精密検査を受診したものの割合＜精検受診率(%) = 精検受診者数 / 要精検者数＞をいう。

④ 年齢階級別成績（検診全体）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
	受診者数	142	340	1,169	1,495	1,599	1,391	933	614	278	65	22	3	8,051
要精検者数	5	11	48	54	54	48	35	29	6	5	0	0	295	
精検受診者数	1	1	8	16	24	15	28	12	5	5	0	0	115	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	胃ポリープ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	胃潰瘍（癒痕を含）	0	0	1	2	1	1	3	4	0	1	0	0	13
	その他の良性疾患	1	0	4	9	10	5	17	7	4	3	0	0	60
	異常なし	0	0	2	3	5	3	5	0	0	1	0	0	19
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	1	1	2	7	6	2	0	0	0	0	0	19
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

⑤ 年齢階級別成績（任意型検診 初回受診）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
	受診者数	69	108	210	156	163	124	78	54	32	11	0	0	1,005
要精検者数	1	4	12	7	7	5	4	1	1	0	0	0	42	
精検受診者数	1	0	1	2	2	0	2	0	1	0	0	0	9	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	胃潰瘍（癒痕を含）	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	その他の良性疾患	1	0	1	0	1	0	2	0	1	0	0	0	6
	異常なし	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥ 年齢階級別成績（任意型検診 逐年受診）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
	受診者数	57	171	599	714	821	700	488	319	190	45	11	1	4,116
要精検者数	4	7	21	22	25	25	17	16	4	5	0	0	146	
精検受診者数	0	1	2	4	8	3	11	8	3	5	0	0	45	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃潰瘍（癒痕を含）	0	0	1	0	0	0	1	2	0	1	0	0	5
	その他の良性疾患	0	0	1	2	3	3	5	5	2	3	0	0	24
	異常なし	0	0	0	1	1	0	3	0	0	1	0	0	6
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	1	0	1	4	0	2	0	0	0	0	0	8
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

⑦ 年齢階級別成績（対策型検診 初回受診）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
		受診者数	3	9	80	89	70	73	40	34	8	0	3	1
	要精検者数	0	0	2	2	5	4	2	2	1	0	0	0	18
	精検受診者数	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	5
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃潰瘍（癒痕を含）	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	その他の良性疾患	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
	異常なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑧ 年齢階級別成績（対策型検診 逐年受診）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
		受診者数	13	52	280	536	545	494	327	207	48	9	8	1
	要精検者数	0	0	12	19	17	12	14	12	1	2	0	0	89
	精検受診者数	0	0	5	10	14	12	13	2	0	0	0	0	56
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	胃ポリープ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃潰瘍（癒痕を含）	0	0	0	1	1	1	2	1	0	0	0	0	6
	その他の良性疾患	0	0	2	7	6	2	8	1	0	0	0	0	26
	異常なし	0	0	2	1	4	3	2	0	0	0	0	0	12
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	1	1	3	6	0	0	0	0	0	0	11
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

5 平成 29 年度 X 線検査件数

(単位：件)

部位別検査	検診形態		検査件数
胸部	外来	35	16,154
	契約検診	11,331	
	集団検診（施設）	2,252	
	集団検診（車）	2,536	
上部消化管	外来	2	8,053
	契約検診	5,121	
	集団検診（施設）	1,748	
	集団検診（車）	1,182	
下部消化管			2
胸部 CT			901
腹部 CT			55
頭部 CT			10
マンモグラフィ			997
骨密度			726
内臓脂肪測定			287
計			27,185

6 平成 29 年度 内視鏡検査件数

(単位：件)

検査件数	
上部消化管	6,340
経鼻内視鏡の内訳	<1,273>
下部消化管	1,650
計	7,990
生検件数	
上部消化管	504
下部消化管	380
計	884
下部消化管治療件数	
大腸粘膜切除術 (EMR)	44

(単位：件)

鎮静剤使用による検査件数	
上部消化管	2,664
下部消化管	969
計	3,633

生検件数：内視鏡下で組織片を得るための検査件数であり、病理組織診断、ヘリコバクター・ピロリ感染診断、細菌培養同定検査を目的としている。

7 平成 29 年度 病理検査件数

(単位：件)

		施設内症例		施設外症例		計
		上 部	下 部	上 部	下 部	
組織検査	生 検	507	382	—	—	889
	内視鏡切除	—	44	1	18	63
	外科切除	—	—	1	—	1
計		933		20		953

細胞検査	2,020
------	-------

8 平成 29 年度 がん患者数

(単位：人)

	食道がん		胃 がん		大腸がん	
	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性
～29 歳						
30～34 歳						
35～39 歳				1		1
40～44 歳						
45～49 歳			1		1	
50～54 歳			2		1	
55～59 歳	1		2		2	1
60～64 歳			5	1	1	
65～69 歳			4		1	
70～74 歳	1		2	1		1
75～79 歳			2	1	1	
80 歳～						
小 計	2	0	18	4	7	3
計	2		22		10	

9 平成 29 年度 食道がん占拠部位別件数

(単位：件)

Ce	
Ut	
Mt	1
Lt	1
Ae	
EG	
計	2

10 平成 29 年度 胃がん占拠部位

(単位：件)

	Less	Gre	Ant	Post	計
U			1	2	3
M	3	2	1	4	10
L	6	1	2		9
Other					0
計	9	3	4	6	22

11 平成 29 年度 大腸がん占拠部位と肉眼形態

(単位：件)

	0						1	2	3	計
	Ip	Isp	Is	IIa	IIc	IIa+ IIc				
C										0
A		1						1		2
T		1				1				2
D						1				1
S	2	1								3
RS										0
R		1						1		2
計	2	4	0	0	0	2	0	2	0	10

12 平成 29 年度 腹部超音波検査件数

(単位：件)

		契約検診		外 来		計
		6,384		444		6,828
		男 性	女 性	男 性	女 性	
		4,885	1,499	296	148	
有所見 内 訳	脂肪肝	2,224	249	133	26	2,632
	肝嚢胞	1,378	380	122	63	1,943
	肝血管腫（疑い）	553	213	35	32	833
	肝腫瘍（疑い）	16	6	1	0	23
	慢性肝疾患	26	4	10	2	42
	肝硬変	5	0	4	3	12
	門脈瘤	7	0	1	0	8
	肝内石灰化	216	46	31	4	297
	胆嚢ポリープ	1,580	342	103	30	2,055
	胆石	250	64	40	9	363
	胆嚢腺筋腫症	176	53	26	11	266
	慢性胆嚢炎	5	1	0	0	6
	胆嚢壁内結石	154	26	14	2	196
	膵嚢胞	79	25	17	16	137
	膵石	12	0	2	0	14
	膵腫瘍（疑い）	7	4	1	7	19
	腎嚢胞	1,542	235	131	42	1,950
	腎結石・尿管結石	167	28	7	4	206
	水腎症	41	18	6	8	73
	腎内石灰化	1,264	253	84	39	1,640
	腎血管筋脂肪腫	42	28	4	7	81
	腎腫瘍（疑い）	6	0	0	1	7
	馬蹄腎	8	2	1	0	11
脾嚢胞	9	4	0	0	13	
脾腫瘍（疑い）	11	2	1	0	14	
副腎腫瘍	11	4	4	0	19	

13 平成 29 年度 乳腺超音波検査件数及び有所見者数

乳腺超音波件数	1,574 件
---------	---------

有所見 内訳

(単位：件)

内 訳	契約検診	外 来	計
乳腺症	37	1	38
乳腺腫瘍（疑い）	38	3	41
乳腺嚢胞	938	21	959
嚢胞内腫瘍（疑い）	1	0	1
非浸潤癌（疑い）	0	0	0
浸潤癌（疑い）	2	0	2
線維腺腫（疑い）	300	6	306
乳房脂肪腫	3	0	3
乳管拡張症	32	1	33

14 平成 29 年度 臨床検査件数

(単位：件)

種 別	件 数
生 化 学	170,407
検 尿	58,685
検 便	16,503
血 液	56,305
血 清 学	34,799
ウイルス (HIV)	5
細 菌	44
合 計	336,748

15 平成 29 年度 臨床検査別件数

(単位：件)

種 別		件 数
生 化 学	蛋 白	20,345
	糖	18,518
	脂 質	46,039
	酵 素	53,220
	その他	32,285
	計	170,407
検 尿		58,685
検 便	検 便	14,591
	検 便 (虫卵)	1,912
	計	16,503
血 液	血液形態学	573
	血液凝固	107
	血球計数	55,625
	計	56,305
血清学		34,799
ウイルス (HIV)		5
細 菌		44
合 計		336,748

D 啓発事業

研究事業の成果を社会還元するため、消化器がんに対する正しい認識と早期発見のための定期検診の重要性を中心として、これからの健康管理に資するべく、がん対策の基礎知識並びに生活習慣病も含む、幅広い健康管理法について各種の啓発活動を行った。

また、同主旨のもと周辺医師会・病院・企業健康管理室等と連携し、講演会、勉強会等を通しての読影・診断 X 線（胃透視）、上部・下部内視鏡、超音波などの技術の向上と健康意識の普及に努めた。

1 保健指導者セミナー

開催日：平成 29 年 11 月 17 日（金）

場所：鉄鋼会館 会議室

講師：杏林大学外科教授 杉山 政則

テーマ：「膵臓がんを早期発見するために」

* セミナーの内容をまとめた冊子を作成しているところであり、今後、無料配布する予定である。

2 ニュースレター

消化器がんや医療機器について、わかりやすく解説したニュースレターを発行した。平成 29 年度は、次の事項を取り上げ、疾病等に関する普及啓発に努めた。

第 36 号 「甲状腺（疾患）について」

第 37 号 「大腸 CT 検査について」

第 38 号 「逆流性食道炎について」

第 39 号 「関節リウマチについて」

第 40 号 「マンモグラフィと乳腺濃度について」

第 41 号 「糖尿病と怖い合併症について」

E 法人運営

1 評議員会・理事会の開催

第19回 理事会

日 時 平成29年5月23日(火) 18時から
場 所 東京証券会館9階 第8会議室
出席数 理事9名、監事3名
決議事項 ① 平成28年度事業報告書・計算書類等の件
② 第6回評議員会の日時、場所及び目的である事項の件
報告事項 平成28年度資金運用実績について

第6回 評議員会

日 時 平成29年6月12日(月) 18時から
場 所 東京証券会館9階 第8会議室
出席数 評議員11名、理事2名
決議事項 ① 平成28年度事業報告書・計算書類等の件
② 評議員の選任の件

第20回 理事会

日 時 平成29年11月8日(水) 18時30分から
場 所 東京証券会館9階 第9会議室
出席数 理事8名、監事3名
決議事項 ① 育児、介護休業等に関する規程の一部改正の件
報告事項 業務執行状況について

第21回 理事会

日 時 平成30年3月12日(月) 17時30分から
場 所 東京証券会館9階 第8会議室
出席数 理事8名、監事3名
決議事項 ① 平成30年度事業計画書・収支予算書の件
② 平成30年度資金運用の方針及び運用計画の件
報告事項 業務執行状況について

2 研究用機器の整備

研究対象の底辺拡大とがん検診の高度化及び総合化への社会要請の変化に対応し、質・量ともに研究事業の成果の向上及び検診事業の充実を図るため、引き続き研究用機器を整備した。

- ・ 内視鏡用洗浄消毒装置
- ・ 眼底カメラ
- ・ 大腸 CT 検査用 CO₂ 自動注入器

3 資金計画

機器装置、設備等の更新及び事業の実施等に必要な資金は、自己資金のほか、寄附金、賛助会費及び補助金等の援助を得て賄うとともに、計画的な執行に努めた。

4 法令遵守（コンプライアンス）の徹底

当協会の規程等の見直しを行い、内部統制が確実に行えるようにした。また、職員に対して法令及び規程等を周知し、その徹底を図った。

平成 29 年度 計算書類等

A 貸借対照表

平成 30 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	127,717,465	148,750,231	△ 21,032,766
未収金	55,502,789	52,199,429	3,303,360
薬品	1,590,161	1,310,285	279,876
診療材料	30,270	56,170	△ 25,900
貯蔵品	326,846	468,302	△ 141,456
前払費用	11,018,556	11,072,997	△ 54,441
流動資産合計	196,186,087	213,857,414	△ 17,671,327
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	5,725,958	23,077,889	△ 17,351,931
投資有価証券	194,274,042	176,922,111	17,351,931
基本財産合計	200,000,000	200,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	37,731,412	34,139,040	3,592,372
減価償却引当資産	83,000,000	83,000,000	0
特定資産合計	120,731,412	117,139,040	3,592,372
(3) その他固定資産			
敷金	18,383,640	18,383,640	0
入居保証金	4,080,000	4,080,000	0
造作設備	12,924,037	18,819,607	△ 5,895,570
什器備品	39,120,860	48,941,166	△ 9,820,306
研究機器	59,979,315	82,954,170	△ 22,974,855
ソフトウェア	741,799	1,053,723	△ 311,924
電話加入権	1,798,182	1,798,182	0
一括償却資産	400,772	658,208	△ 257,436
長期前払費用	1,158,110	1,274,566	△ 116,456
その他固定資産合計	138,586,715	177,963,262	△ 39,376,547
固定資産合計	459,318,127	495,102,302	△ 35,784,175
資産合計	655,504,214	708,959,716	△ 53,455,502
II 負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	9,910,394	11,175,384	△ 1,264,990
未払費用	23,335,801	20,976,120	2,359,681
未払金	16,557,322	17,190,488	△ 633,166
リース債務	29,956,444	35,657,084	△ 5,700,640
預り金	3,115,876	1,728,411	1,387,465
賞与引当金	10,871,975	10,031,463	840,512
未払消費税	7,810,800	1,863,700	5,947,100
流動負債合計	101,558,612	98,622,650	2,935,962
2. 固定負債			
役員退職慰労引当金	8,291,800	6,341,800	1,950,000
退職給付引当金	29,439,612	27,797,240	1,642,372
長期未払金	4,742,835	6,685,439	△ 1,942,604
リース債務	63,166,949	90,793,233	△ 27,626,284
固定負債合計	105,641,196	131,617,712	△ 25,976,516
負債合計	207,199,808	230,240,362	△ 23,040,554
III 正味財産の部			
一般正味財産	448,304,406	478,719,354	△ 30,414,948
(うち基本財産への充当額)	(200,000,000)	(200,000,000)	
正味財産合計	448,304,406	478,719,354	△ 30,414,948
負債及び正味財産合計	655,504,214	708,959,716	△ 53,455,502

B 正味財産増減計算書

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益			
基本財産受取利息	938,403	1,172,786	△ 234,383
② 特定資産運用益			
特定資産受取利息	233,000	235,740	△ 2,740
特定資産受取配当金	222,217	210,423	11,794
③ 受取会費			
賛助会員受取会費	3,813,460	3,629,000	184,460
④ 事業収益			
診断診療事業収益	580,161,063	599,195,033	△ 19,033,970
⑤ 受取寄附金			
受取寄附金	14,545,000	14,942,768	△ 397,768
⑥ 雑収益			
受取利息	3,435	12,602	△ 9,167
雑収益	2,601,301	2,629,771	△ 28,470
経常収益計	602,517,879	622,028,123	△ 19,510,244
(2) 経常費用			
① 事業費			
役員報酬	15,120,000	14,131,538	988,462
給料手当等	245,710,888	224,137,162	21,573,726
役員退職慰労引当金繰入額	1,260,000	625,170	634,830
退職給付費用	4,792,392	5,916,848	△ 1,124,456
福利厚生費	27,126,323	28,088,270	△ 961,947
旅費交通費	514,359	1,042,344	△ 527,985
通信運搬費	5,008,708	5,103,531	△ 94,823
医療材料費	30,325,765	35,269,147	△ 4,943,382
消耗品費	15,793,187	15,033,546	759,641
修繕費	16,632,944	20,297,300	△ 3,664,356
図書費	756,611	629,357	127,254
印刷製本費	2,743,857	3,188,550	△ 444,693
光熱水料費	3,632,992	3,671,927	△ 38,935
貸借料	83,241,098	83,234,607	6,491
委託費	81,787,163	94,465,152	△ 12,677,989
リース費	125,280	433,440	△ 308,160
会議費	20,626	61,874	△ 41,248
保険料	247,783	352,610	△ 104,827
支払負担金	460,800	640,200	△ 179,400
支払利息	466,074	164,160	301,914
支払手数料	1,915,295	1,711,203	204,092
交際費	24,500	31,380	△ 6,880
広告費	116,158	123,428	△ 7,270
減価償却額	44,874,248	44,852,033	22,215
租税公課	4,362,403	5,849,839	△ 1,487,436
雑費	1,074,531	272,902	801,629

科 目	当年度	前年度	増 減
② 管理費			
役 員 報 酬	8,280,000	11,742,640	△ 3,462,640
給 料 手 当 等	22,964,522	19,043,260	3,921,262
役員退職慰労金繰入額	690,000	1,175,830	△ 485,830
退 職 給 付 費 用	1,079,780	435,900	643,880
福 利 厚 生 費	4,426,282	4,158,696	267,586
旅 費 交 通 費	46,773	1,823	44,950
通 信 運 搬 費	110,273	33,261	77,012
消 耗 品 費	126,100	42,000	84,100
修 繕 費	234,000	216,000	18,000
図 書 費	0	7,386	△ 7,386
印 刷 製 本 費	0	64,500	△ 64,500
光 熱 水 料 費	157,642	158,391	△ 749
賃 借 料	1,995,000	1,995,000	0
委 託 費	144,000	148,000	△ 4,000
会 議 費	214,846	224,120	△ 9,274
支 払 負 担 金	102,000	102,000	0
支 払 寄 附 金	55,000	100,000	△ 45,000
交 際 費	15,000	35,000	△ 20,000
減 価 償 却 費	643,638	691,091	△ 47,453
顧 問 料	1,700,556	1,665,556	35,000
租 税 公 課	6,200	14,750	△ 8,550
雑 費	1,798,000	0	1,798,000
経常費用計	632,923,597	631,382,722	1,540,875
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 30,405,718	△ 9,354,599	△ 21,051,119
特定資産評価損益等	△ 9,225	△ 349,939	340,714
評価損益等計	△ 9,225	△ 349,939	340,714
当期経常増減額	△ 30,414,943	△ 9,704,538	△ 20,710,405
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
①固定資産売却益	0	398,149	△ 398,149
経常外収益計	0	398,149	△ 398,149
(2) 経常外費用			
①固定資産売却損	0	117,891	△ 117,891
②固定資産除却額			
研究機器除却額	5	73,508	△ 73,503
什器備品除却額	0	6,621	△ 6,621
経常外費用計	5	198,020	△ 198,015
当期経常外増減額	△ 5	200,129	△ 200,134
当期一般正味財産増減額	△ 30,414,948	△ 9,504,409	△ 20,910,539
一般正味財産期首残高	478,719,354	488,223,763	△ 9,504,409
一般正味財産期末残高	448,304,406	478,719,354	△ 30,414,948
II 指定正味財産増減の部			
(1) 一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	448,304,406	478,719,354	△ 30,414,948

C 財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有有価証券	…	原価法又は償却原価法(定額法)による。
その他有価証券		
時価のあるもの	…	決算日の市場価格等に基づく時価法による。 (売却原価は移動平均法により算定する。)
時価のないもの	…	移動平均法による原価法による。

(2) 棚卸資産の評価方法及び評価基準

薬品、診療材料及び貯蔵品	…	最終仕入原価法による低価基準
--------------	---	----------------

(3) 固定資産の減価償却の方法

法人税法の規定に基づく定額法による。

(4) 引当金の計上基準

①賞与引当金	…	財団職員の賞与に充てるため、将来の支給見込金額のうち当期の負担額を計上している。
②役員退職慰労引当金及び 退職給付引当金	…	財団役職員の自己都合退職による退職金要支給額を計上している。

(5) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンスリース取引で、リース開始日が会計基準適用前のものについては、改正前会計基準である通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用している。

(6) 消費税等の会計処理 税抜方式

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
普通預金	23,077,889	146,540,206	163,892,137	5,725,958
投資有価証券	176,922,111	163,892,137	146,540,206	194,274,042
小 計	200,000,000	310,432,343	310,432,343	200,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	34,139,040	7,435,172	3,842,800	37,731,412
減価償却引当資産	83,000,000	9,225	9,225	83,000,000
小 計	117,139,040	7,444,397	3,852,025	120,731,412
合 計	317,139,040	317,876,740	314,284,368	320,731,412

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
普通預金	5,725,958	0	5,725,958	—
投資有価証券	194,274,042	0	194,274,042	—
小 計	200,000,000	0	200,000,000	
特定資産				
退職給付引当資産	37,731,412	—	—	37,731,412
減価償却引当資産	83,000,000	0	83,000,000	—
小 計	120,731,412	0	83,000,000	37,731,412
合 計	320,731,412	0	283,000,000	37,731,412

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
造 作 設 備	96,299,040	83,375,003	12,924,037
什 器 備 品	84,290,194	45,169,334	39,120,860
研 究 機 器	322,814,858	262,835,543	59,979,315
ソ フ ト ウ ェ ア	3,308,923	2,567,124	741,799
合 計	506,713,015	393,947,004	112,766,011

5 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

(単位：円)

科 目	帳簿価額	時価 (円換算)	評価損益
三菱UFJ信託銀行株式会社社債	30,714,667	31,491,000	776,333
サ・コールドマン・サックスグループ社債	20,000,000	19,868,000	△ 132,000
ソフトバンクグループ社債	31,509,009	30,690,000	△ 819,009
三菱UFJフィナンシャルグループ社債	20,000,000	20,022,000	22,000
B P C E S . A 社債	41,571,698	41,464,000	△ 107,698
MS&ADインシュアランスグループ社債	20,330,183	20,224,000	△ 106,183
ド イ ツ 銀 行 社 債	30,148,485	29,652,000	△ 496,485
三井住友フィナンシャルグループ社債	10,000,000	10,056,000	56,000
合 計	204,274,042	203,467,000	△ 807,042

6 引当金の増減額及びその残高

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞 与 引 当 金	10,031,463	33,733,469	32,892,957	0	10,871,975
役員退職慰労引当金	6,341,800	1,950,000	0	0	8,291,800
退職給付引当金	27,797,240	5,485,172	3,842,800	0	29,439,612
合 計	44,170,503	41,168,641	36,735,757	0	48,603,387

D 財 産 目 録

平成 30 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額			
(流動資産)	現金預金					
	現金	手元保管	運転資金として 439,952			
	普通預金	三井住友銀行東京中央支店	〃	5,065,512		
		三井住友銀行東京中央支店	〃	41,076,359		
		三井住友銀行東京中央支店	〃	6,380		
		東京都民銀行茅場町支店	〃	12,860,691		
		みずほ銀行丸の内中央支店	〃	38,635,625		
		ゆうちょ銀行	〃	147,398		
		三菱東京UFJ銀行八重洲通支店	〃	6,255,752		
		三井住友信託銀行本店営業部	〃	3,229,796		
		三井住友信託銀行本店営業部	〃	20,000,000		
		< 現金預金計 >			127,717,465	
	未収金	社会保険報酬支払基金	公益目的事業の収入である。	10,070,232		
		協会けんぽ	〃	3,839,360		
		伊藤忠健康保険組合	〃	7,926,336		
		東京証券業健康保険組合	〃	4,082,448		
		東京都国民健康保険団体連合会	〃	3,890,736		
		上記他103件	〃	25,693,677		
		< 未収金計 >			55,502,789	
	薬品	X線撮影用造影剤他		1,590,161		
	診療材料	X線フィルムほか		30,270		
	貯蔵品	印刷物ほか		326,846		
	前払費用	日経プラザアンドサービス	H30.4分賃借料 役職員の6か月分通勤費である。(H30.4~ H30.9)	6,631,323		
通勤手当			3,024,110			
タカハシビル		H30.4分賃借料	718,200			
火災保険料			236,523			
リース契約に関する利息		公益目的保有財産	392,400			
東京証券会館		理事会会場費	16,000			
< 前払費用計 >			11,018,556			
流動資産合計			196,186,087			
(固定資産)	基本財産	普通預金	三井住友銀行東京中央支店	運用益を公益目的事業に使用している。	5,725,958	
		投資有価証券	BPCE S.A社債	〃	41,571,698	
			ソフトバンクグループ社債	〃	31,509,009	
			三菱UFJ信託銀行社債	〃	30,714,667	
			ドイツ銀行社債	〃	30,148,485	
			MS&ADインシュアランスグループ社債	〃	20,330,183	
			ザ・ゴールドマン・サックスグループ社債	〃	20,000,000	
			三菱UFJフィナンシャルグループ社債	〃	20,000,000	
		< 基本財産計 >			200,000,000	
		特定資産	退職給付引当資産	普通預金	三井住友銀行東京中央支店	退職給付引当金見合の引当資産として管理 している。
				三井住友フィナンシャルグループ社債	〃	10,000,000
	減価償却引当資産		トヨタ自動車株式	〃	5,299,000	
			普通預金	三井住友銀行東京中央支店	公益目的事業用資産の取得資金	73,000,000
		野村證券ファンドラップ	〃	9,531,342		
		三井住友銀行東京中央支店	〃	468,658		
	< 特定資産計 >			120,731,412		
	その他固定資産	敷金	株式会社日本経済新聞社	日経茅場町ビル敷金	18,383,640	
		入居保証金	タカハシビル	タカハシビル入居保証金	4,080,000	
		造作設備	3F診察室改装工事		公益目的保有財産	3,394,000
			C T室改修工事		〃	2,114,324
			2FX線室改装工事		〃	2,000,000
			3階・4階改修工事		〃	1,139,351
			4Fドック改装工事		〃	1,035,248
その他造作設備			〃	1,751,488		
	〃	法人会計保有財産	1,489,626			

什器備品	X線画像管理システム	公益目的保有財産	17,666,667	
	健診システム	〃	10,579,846	
	電子カルテ	〃	6,125,600	
	Console Advance一式	〃	1,032,042	
	医療系LANケーブル工事	〃	975,334	
	複合機5台	〃	668,787	
	本館医局LANケーブル配線工事	〃	639,167	
	電子カルテ端末	〃	312,182	
	研究用ノートPC	〃	189,423	
	その他什器備品	〃	279,775	
	労務システムサーバ	法人会計保有財産	652,034	
	その他什器備品	〃	3	
	研究機器	電子内視鏡及び各種内視鏡機器	公益目的保有財産	17,289,330
		X線テレビ装置（胃部）3台	〃	13,884,001
		乳房X線撮影装置	〃	14,343,750
		マルチスライスCT	〃	4,900,000
		オート無散瞳眼底カメラ	〃	2,330,160
		婦人科超音波診断装置	〃	1,130,850
		内視鏡洗滌消毒装置 3台	〃	1,056,250
		全自動血球計数器	〃	831,000
		エニマCo2	〃	779,006
		婦人科診察台	〃	733,302
		自動身長計付体重計	〃	705,000
		炭酸ガス装置	〃	303,984
		炭酸ガス送気装置	〃	267,750
		エニマCo2ワゴン	〃	257,834
		パルスオキシメーター	〃	217,724
その他		〃	949,372	
〃		法人会計保有財産	2	
電話加入権	3668-6801他	公益目的保有財産	1,348,637	
	3668-6803他	法人会計保有財産	449,545	
ソフトウェア	会計ソフト他	〃	476,884	
	電子カルテ	公益目的保有財産	255,581	
	その他	〃	9,334	
一括償却資産	平成27年度分	〃	2	
	平成28年度分	〃	296,770	
	平成29年度分	〃	104,000	
長期前払費用	リース契約に関する利息	〃	882,166	
	火災保険料	〃	275,944	
		<その他固定資産計>	138,586,715	
固定資産合計			459,318,127	
資産合計			655,504,214	

(流動負債)	買掛金	メディセオ	公益目的事業の費用である。	5,214,610
		富士フイルムメディカル	〃	2,111,137
		リソパスティカル株式会社	〃	1,359,205
		東邦薬品	〃	926,341
		アルフレッサ	〃	155,365
		サンメディックス	〃	74,314
		メディエントランス	〃	53,870
		ミナト医科学	〃	15,552
				<買掛金計>
	未払費用	締後給料	H30.3月分	20,036,606
		社会保険料	〃	3,116,458
		郵便料金	〃	142,746
		電話料金	〃	38,465
		旅費交通費	〃	1,526
			<未払費用計>	23,335,801
未払金	LSIメディエンス	公益目的事業の費用である。	5,078,124	
	戸田ビルパートナーズ	〃	1,407,498	
	エーゼット	〃	1,219,860	
	サン・ウォッシング	〃	1,041,605	
	東芝メディカルシステムズ	〃	734,400	
	アデコ	〃	727,428	
	リース残債務に関わる消費税等	〃	2,128,994	
	上記他29件	〃	4,219,413	
		<未払金計>	16,557,322	
リース債務	医療機器	公益目的事業の費用である。	20,082,160	
	什器備品	〃	9,874,284	
		<リース債務計>	29,956,444	
預り金	源泉所得税	H30.3月分	1,301,911	
	市町村民税	〃	614,400	
	職員負担分社会保険料	〃	1,199,565	
		<預り金計>	3,115,876	
賞与引当金	職員	職員の賞与の引当金である。	10,871,975	
未払消費税	H29年度分		7,810,800	
流動負債合計			101,558,612	
(固定負債)	役員退職慰労引当金		役員退職慰労金の引当金である。	8,291,800
	退職給付引当金		職員の退職金の引当金である。	29,439,612
	長期未払金	リース残債務に関わる消費税等		4,742,835
	リース債務	医療機器	公益目的事業の費用である。	36,778,650
什器備品		〃	26,388,299	
		<リース債務計>	63,166,949	
固定負債合計			105,641,196	
負債合計			207,199,808	
正味財産			448,304,406	

平成 30 年 6 月 11 日

公益財団法人 早期胃癌検診協会 事務局

〒103-0025

東京都中央区日本橋茅場町 2 丁目 6 番 12 号

Tel. 03-3668-6803

Fax. 03-3639-5404

URL <http://www.soiken.or.jp/>

E-mail mail@soiken.or.jp